

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	墨俣町・安八町中学校組合立東安中学校			フロンティアティーチャー	樋口 章夫	
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	11	22
生徒数	95	85	97	4	281	

研究の概要

1 研究主題

「確かな学力を身に付け、主体的に生きる生徒の育成」

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・少人数指導、TT
 1年(国語・数学・理科・英語) 2年(社会・数学・理科・美術) 3年(数学・理科)
 昨年度の研究を通して、少人数指導が確かな学力を身につけさせる上で有効な指導形態であることが実証された。そこで本年度は、少人数指導やTTが行える学年、教科の枠をできるだけ広げ、研究に取り組みたいと考えた。

(2) 年次ごとの計画

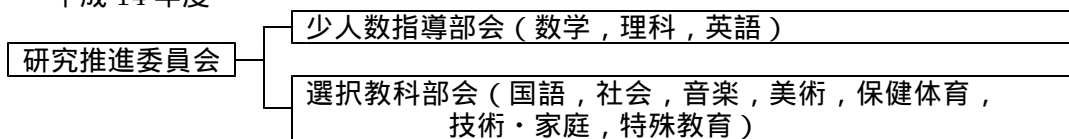
平成14年度	<p>研究主題 「確かな学力を身につけ、主体的に生きる生徒の育成」 ～個に応じた指導の工夫～</p> <p>仮説 実態を把握し、それに応じた適切な指導と評価を行えば、願う生徒像に近づくことができる。</p> <p>研究内容と方法 [少人数指導]の場合</p> <p>(1) 一人一人の学習状況の的確な把握 ・評価規準を明確にし、その視点で授業中の生徒の学習状況を把握する。 ・学習プリント等を活用して学習状況を把握し、次の時間の学習に生かす。</p> <p>(2) できるようになりたい、もっとやってみたい、という生徒の願いを援助するきめ細かな指導の工夫 ・学習形態の工夫 数学 生徒の希望をもとに、習熟度別学習班を編制する。 理科 一人一実験や二人一実験を実現し、生徒一人一人の観察・実験時間を十分に確保する。 英語 ペアや班の分け方を工夫する。(活動や学習内容に応じて、人数や組み合わせを調整する。) 個の活動量を確保する。(一斉・班・ペア・個)</p> <p>・指導の手立ての工夫 生徒の実態をふまえ、CをBに引き上げるため、つまづきを予想し、それに対する手立てを明確にする。また、BをAにするため発展的な教材を準備する。</p> <p>(3) 意欲を高める評価の工夫 ・できるようになったこと、その子なりの工夫等めあてに沿ってよさを見出し、その場で認め広げる。 ・振り返る観点を明確にした自己評価をする。</p>
--------	--

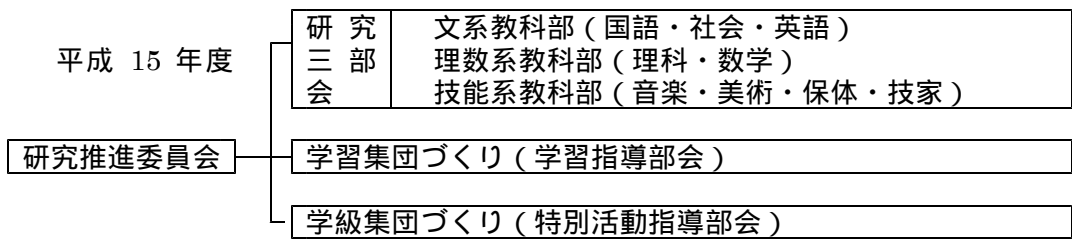
研究主題	「確かな学力を身につけ、主体的に生きる生徒の育成」
仮説1	生徒が自分で「できた」「わかった」喜びを味わえば、生徒は主

平成15年度	<p>体的に授業に取り組むことができる。</p> <p>仮説2 個に応じた指導形態や学習形態を工夫した授業を行えば、確かな学力を身につけることができる。</p> <p>仮説3 個の学習状況を的確に評価し、それを生かした指導をすれば、確かな学力を身につけることができる。</p> <p>研究内容と方法</p> <p>(1)主体的に学ぶ学習過程のあり方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学び方を身に付ける学習過程のあり方 (全教科共通の学び方, 教科独自の学び方) ・主体的な追究を生み出す課題設定のあり方 (学ぶ意欲を高めるよい出会いとなる導入、魅力や必然性のある問題状況の設定、様々な追究ができる課題設定) <p>(2)個に応じた指導・援助の在り方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導形態を工夫した指導を位置付けた単元のあり方 ルーパースタイル(個に応じた指導をよりきめ細かに行うために、指導形態<少人数指導やTT>を有効に位置づけた単元学習)による単元学習の実施 ・補足的な指導、発展的な指導のための意図的・計画的な指導・援助 (予想されるつまずきやすい点に対する手立て、より適応範囲を広げるなどのための手立てとしての言葉かけ、教材・教具の開発・工夫など) <p>(3)学習状況の把握の仕方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コースや指導方法を選択するための診断的評価のあり方 (単元の前に実施するもの) ・指導方法を選択するための形成的評価のあり方 (単元の節ごとに実施するもの) ・学習振り返りカード(生徒)や補助簿の活用 研究内容の前提として取り組むこと 毎時間の評価規準を位置付けた年間指導計画の作成 全体及び各教科の指導の立場づくり, 自ら学ぶ姿の明確化 個に応じた指導をよりきめ細かに行うために、指導形態(少人数指導やTT)を有効に位置づけた単元学習の仕方を工夫した。
--------	---

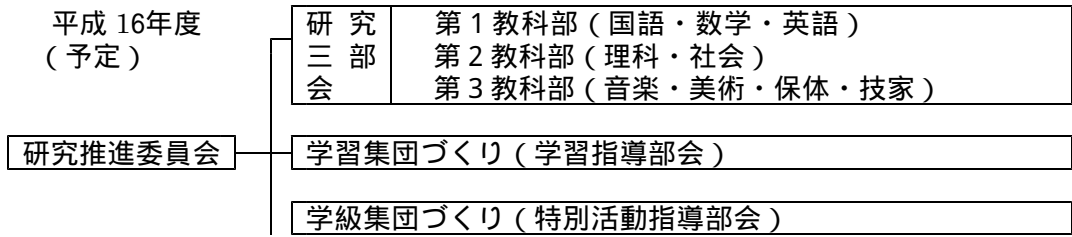
平成16年度	<p>研究主題 「確かな学力を身につけ、主体的に生きる生徒の育成」</p> <p>仮説1 生徒が主体となった授業づくりを行えば、生徒の学習意欲を高め、主体的な学習姿勢が身につく。</p> <p>仮説2 個の学習状況を的確に評価し、それを生かした指導をすれば、確かな学力を身につけることができる。</p> <p>研究内容と方法</p> <p>(1)主体的に学ぶ学習過程のあり方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学び方を身につける学習過程のあり方 ・生徒が主体となった授業づくりの工夫 <p>(2)個に応じた指導・援助のあり方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーパースタイルによる単元学習の確立 <p>(3)学習状況を的確に把握し、指導に生かす工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助簿を活用した評価のあり方 ・生徒の自己評価力を高める指導のあり方
--------	---

(3) 研究体制
平成14年度





昨年度は、少人数指導を数学・理科・英語の三教科で実施していたため、少人数指導部会として一つの研究部会を組織した。本年度は、少人数指導を行う教科を増やし、全教科が個に応じた指導を充実できるよう、三つの研究部会を組織した。



各教科部は、学力の中でも「学び方」において、類似性があるもので編成する。

平成 15 年度の研究の成果および今後の課題

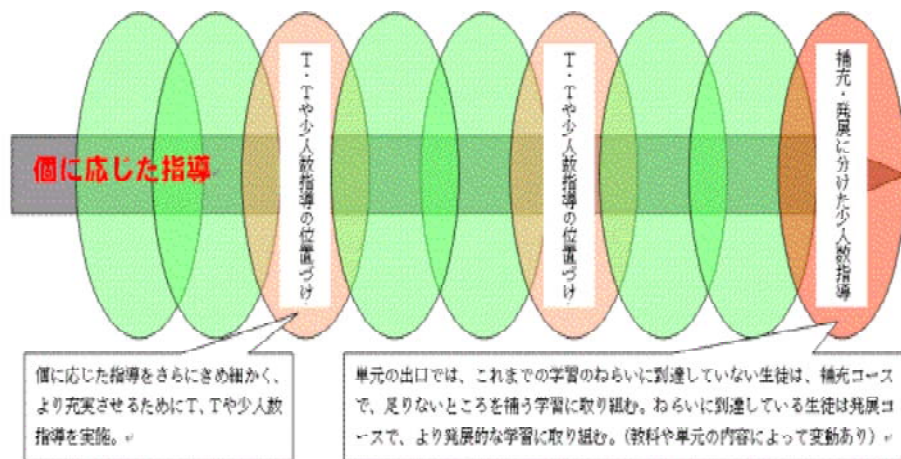
1 研究の成果

課題につながる必然性のある導入を工夫し、個の追究の場を保障することによって、自分の課題について粘り強く追究する生徒が増えた。

個の学習方法や習熟度、課題等に応じて、少人数指導やTTなど指導形態を工夫することによって、「できた。」「分かった。」と言える生徒が増え、学習に対する満足度が高まった。

一斉授業における個に応じた指導の充実を図るとともに、よりきめ細かな個に応じた指導が行なえるよう、多数の教科で「個に応じた指導をさらにきめ細かくしたTT、少人数指導」を単元の一部で実施し、単元の出口では、「習熟度別に分けた少人数指導」を位置づけた（ルーパースタイルの単元学習）。学習の仕方や内容を自分で選択し、決定すること（ルーパースタイルの単元学習）を積み重ねることによって、主体的に学習に取り組む生徒が増えた。

〔ルーパースタイルの単元学習の構成図〕



生徒の振り返りカードや教師の補助簿の累積を生徒が学習の仕方や選択する際の助言に生かすことができた。

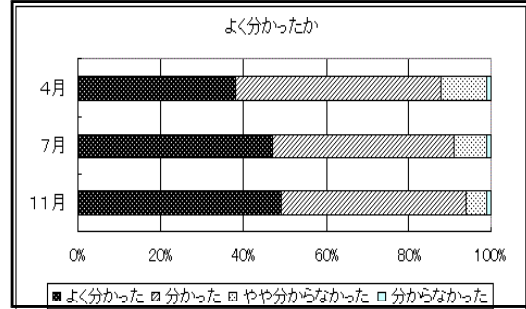
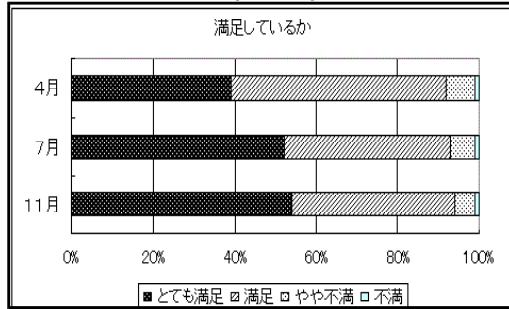
学期の終わりに実施している生徒の授業評価より

4月、7月、11月に全教科とも、全校生徒を対象に下記の項目で授業評価を行った。アンケートには、生徒の授業に対する要望や感想を記入する欄を設け、次学期の授業改善に生かしてきた。

< アンケートの質問内容 >

- a 教科の授業に満足していましたか。
- b 学習の内容はよく分かりましたか。
- c あなたは、分からないことやできないことがあったときどのようにしてきましたか。
- d あなたは、どのような授業を期待しますか。
- e 勉強していてどんなときに「うれしい」とか「よかったなあ」と感じますか。

< 全教科集計結果（全校） >



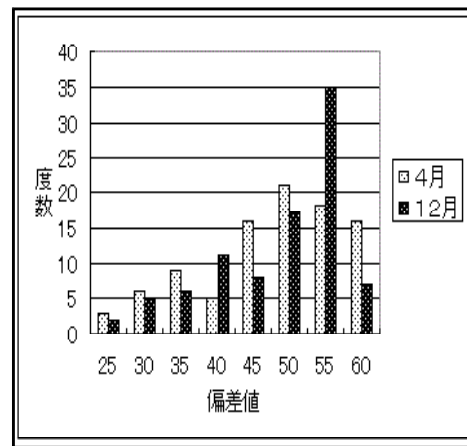
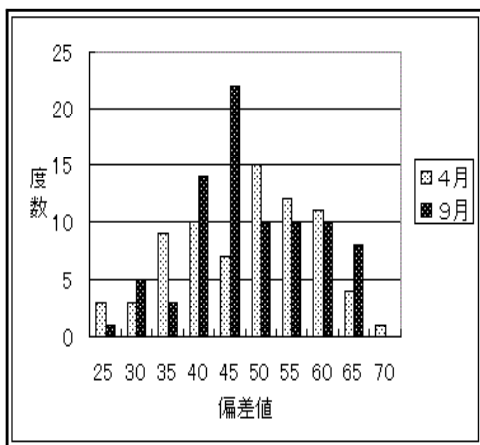
< 結果の分析と考察 >

授業の内容に満足し、学習内容が「わかった」と答えた生徒が回を重ねるにつれて増えている。特に「とても満足している」「よくわかった」とした生徒が、11月には全体の半数にまでなった。

また、4月及び7月のアンケートからは、生徒は「わかりやすい授業」を最も期待していることがわかった。さらに、学習方法が選択できる授業や活動を通して学習する授業を多くの生徒が望んでいることも分かった。そこで、「ルーパースタイル」による少人数指導の時間を活用し、生徒の自己判断によって学習方法や内容を選択する機会を増やしてきたところ、学習方法が選択できる授業や活動を通して学習する授業を望む生徒の割合がさらに増え、数学では、少人数指導による授業を期待する割合が4月に比べ多くなった。

各学期ごとに実施している習熟度テストより

次のグラフは2年生が4月、9月に実施した習熟度テストの数学、3年生が4月、12月に実施した習熟度テストの理科の「偏差値度数分布」である。



3年生 理科

< 結果の分析と考察 >

2年生

どの教科においても偏差値の低い生徒の割合が、4月より9月の方が減った。特に数学においては顕著であった。数学は、習熟度別クラスによる少人数指導を実施しているが、それにより基礎・基本の定着が図られたと考えられる。

3年生

2年生と同様、偏差値の低い生徒の割合が12月の方が減っていた。特に理科において顕著であった。理科は、ほぼ毎時間、少人数指導、TTを実施しているため、その成果が表れたものと考えられる。

2 今後の課題

学習課題を追究する様子や自己評価を更に分析・評価することで、生徒が的確に自己の学習状況を把握し、学習の仕方や内容を適切に選択できるよう指導・援助していききたい。

「教師主導」から「生徒主体」の授業改善を進めるために、生徒会で「さらに自分たちの授業をより意欲的に取り組めるものにしていくには」というモニターを定着させ生徒の声からも授業改善の視点を見いだしていきたい。

学力把握のための学校としての取り組み

習熟度テスト。(学習内容の定着度を総合的にはかるために実施。)

1年、2年 - 4月、9月、2月

3年 - 4月、9月、12月、1月

基礎基本にかかわる定着度学力テスト(基礎・基本にかかわる内容を中心に、その定着度を図るために実施。)

3年 - 11月

来年度は、全学年実施予定。

岐阜県学習状況調査

1, 2年 - 2月に実施予定。

授業に関するアンケート(生徒の授業評価により、学習への関心・意欲や学び方についての変容等を把握するために実施)

全学年とも4月、9月、12月に実施。

フロンティアスクールとしての成果の普及

11月27日(木)「学力向上フロンティア事業」西濃地区協議会・学力向上フロンティアスクール公表会を東安中学校にて開催。

対象：西濃地区の全中学校の代表者、各小中学校の参加希望者、教育委員会の参加希望者、フロンティアティーチャー、保護者や民生児童委員、学校評議員等

目的：実践研究の成果や授業改善の成果を地区内の小中学校が共有し、基礎的・基本的な内容の定着と個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。

・分科会にて本年度の実践をプレゼンにて発表。

・研究紀要の作成。

・指導案集の作成。

・ホームページの作成 (<http://www.mirai.ne.jp/~touan/index.html>)

フロンティアティーチャーの活動

11月25日(火)地区協議会(養老町立高田中学校)に参加。分科会で実践交流。

1月28日(水)地区協議会(池田町立温知小学校)に参加。分科会で実践交流。

2月2日(月)地区協議会(海津町立高須小学校)に参加。分科会で実践交流。

[新規校・継続校] 15年度からの新規校 14年度からの継続校

[学校規模] 3学級以下 4~6学級

7~9学級 10~12学級

13~15学級 16学級以上

[指導体制] 少人数指導 T・Tによる指導

その他

[研究教科] 国語 社会 数学 理科

外国語 音楽 美術 技術・家庭

保健体育 その他

[指導方法の工夫改善に関わる加配の有無] 有 無